

論壇

3段ロケット切り離し

人生の節目で先輩や恩師から聞いた言葉が、その後の自分の生き方に大きな影響をもたらすことが誰にもあるだろう。私の場合にもそうした後に残る言葉がいくつかある。

23歳のころのことだった。学者になることを決めて、米国の留学に向かう途中でロンドンの大学でお会いしたさる高名な日本人の学者の方が私に話した言葉だ。「君はこれから学者になろうとして大学院で頑張つて勉強しようとしているのだらう。それは結構だが、それは人生の3段ロケットの最初

伊藤 元重 (国際経済学) 学習院大教授

にすぎないと考えるべきだ。人生には必ずロケットを3段階と切り離す時期が来ることを忘れてはいけない」というものだ。

確かに、若い頃に勉強したことで一生を過ごすことは難しい。人生、学び直しの連続だ。それに加えて、一生を有意義に過ごすためには、人生の中で何度か大きな転

換を図ることが求められる。そうした時期が来たら、大胆にロケットを切り離す勇氣が必要だ。

その後の私の人生にとって、このアドバイスは貴重だった。今こそロケットを切り離す必要がある、と真剣に考えた時期が何度かあった。経済学者という学者人生

は一生同じだと思われるかもしれないが、大学でアカデミックな仕事に没頭する時期、企業の現場に入つて現実から学ぶ時期、政府の政策に参与する時期など、人生のそれぞれで異なる力点の置き方が変わってくる。

今、人生100年時代というころには、人生の中で何度か大きな転換を図ることが求められる。そうした時期が来たら、大胆にロケットを切り離す勇氣が必要だ。

人生が長くなれば、学校を出たらずくに仕事に就き、それを定年まで続け、あとは老後の生活を送るだけという、単純な人生では済まなくなる。若いときに学んだ知識だけで一生過ごすのは難しい。成人になつても学び直しが必要だろう。また、一つの会社に20歳から60歳まで40年働いて、それから90歳まで年金と貯蓄だけで生活していくというのも現実的ではない。

平均寿命が長くなることは結構なことだ。ただ、そうした変化に対して、私たちの人生設計や仕事への取り組み、そして年金や医療などの社会制度の対応が求められている。そうした対応を誤ると、せっかく寿命が延びても、厳しい人生ということにもなりかねない。

人生100年時代の心構え

働き方を柔軟に変えて

た。先進国で多くの人の寿命が延びることで、長い人生を有意義に過ごすための心構えが重要であるというのだ。現実には、今生まれる赤ん坊の世代は、平均寿命が100歳であるという説もあるようだ。

元氣なら60歳でも70歳でも、年齢にあった働き方を続ける人が増えるだろう。また、老後の生活を支えるために、自分のお金に働かせるという、資産運用の重要性も増して来るだろう。より長い期間働き続けようと思つのであれば、

今からでも遅くない。寿命が長くなったことでこれからの人生にどのように対処すべきか。個人の立場で、家族の視点で、そして地域の枠組みで、よく考えてみる時期であると思う。

今からでも遅くない。寿命が長くなったことでこれからの人生にどのように対処すべきか。個人の立場で、家族の視点で、そして地域の枠組みで、よく考えてみる時期であると思う。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。